

とくしま産学官連携プラットフォーム

# 基本方針

2018年9月

とくしま産学官連携プラットフォーム

中長期計画委員会

徳島大学

鳴門教育大学

徳島文理大学

四国大学

徳島文理大学短期大学部

四国大学短期大学部

徳島工業短期大学

阿南工業高等専門学校

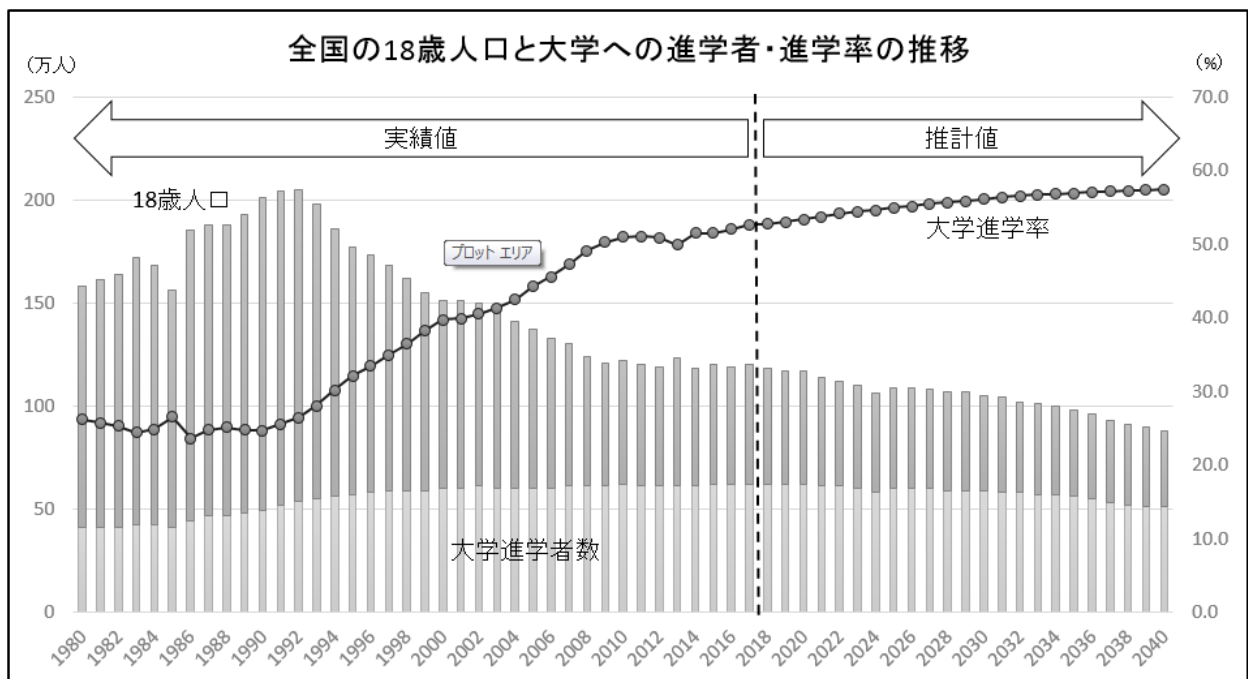
## 《 目 次 》

|                               |    |
|-------------------------------|----|
| 1. 徳島県の高等教育機関の現状              |    |
| (1) 18歳人口                     | 1  |
| (2) 入学者数                      | 2  |
| (3) 外国人留学生                    | 3  |
| (4) 地域や産業界との連携                | 3  |
| (5) 地域を支える人材の育成               | 3  |
| (6) 人生100年時代への対応              | 4  |
| 2. 徳島県の高等教育機関の課題              | 5  |
| 3. 徳島県の高等教育機関のビジョンと目標         | 6  |
| 4. 中長期計画策定に向けた検討項目            | 7  |
| 5. 中長期計画策定までのロードマップ           | 8  |
| 参考資料1 徳島県の学術分野マップ             | 9  |
| 参考資料2 プラットフォーム参画高等教育機関による取組状況 | 11 |

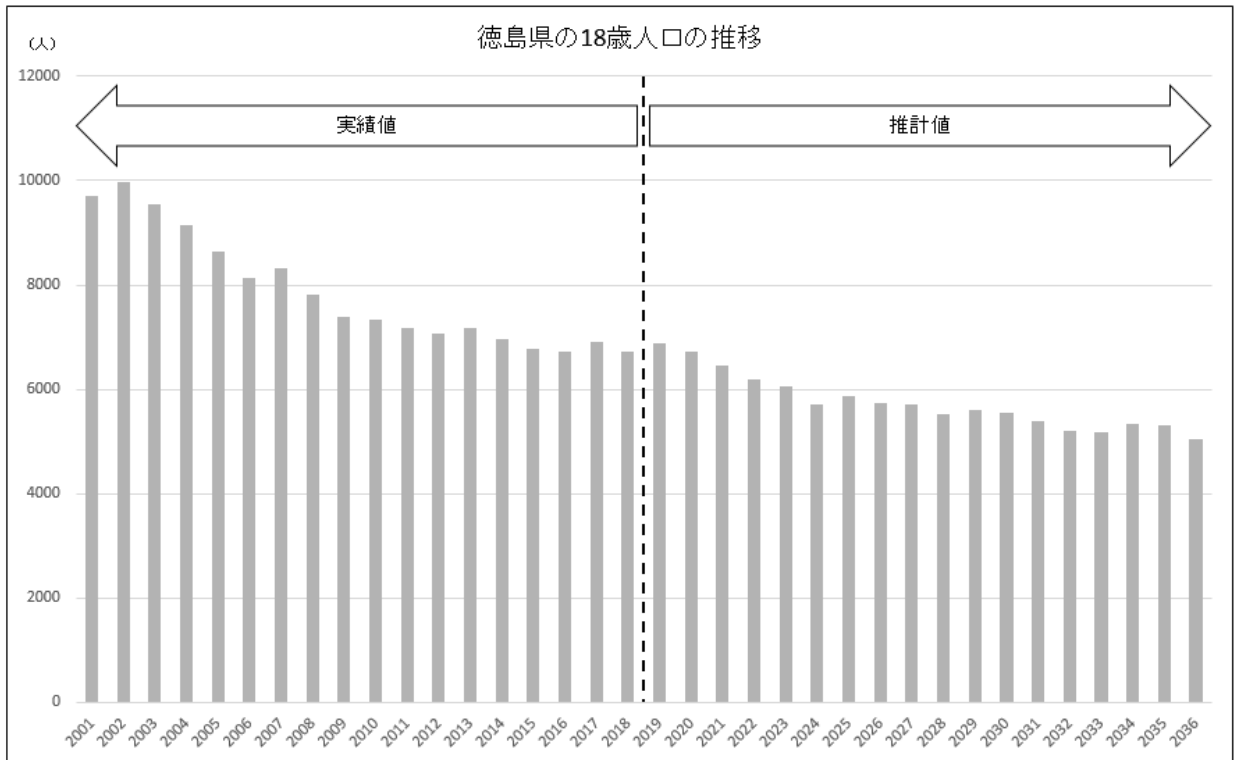
## 1. 徳島県の高等教育機関の現状

### (1) 18歳人口

我が国の18歳人口は、1992年の205万人をピークに減少を続け、2017年に120万人となり、さらに、国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、2030年には103万人（1992年の50.2%）、2040年には88万人（1992年の42.9%）に減少すると試算されている。また、文部科学省中央教育審議会の将来構想部会で示された推計によると、2017年までは18歳人口が減少し続ける中でも、大学進学率は一貫して上昇し大学進学者数も増加傾向にあったが、2018年以降は18歳人口の減少に伴い、大学進学率が上昇しても大学進学者数は減少局面に突入すると予測されており、2017年に63万人であった大学進学者数は、2030年には59万人（2017年の93.7%）、2040年には51万人（2017年の81.0%）に減少すると試算している。



徳島県においても、2008年には7,811人であった18歳人口が、2018年には6,724人となり、10年間に14%（1,087人）も減少している。徳島県の年齢別人口推計によれば、今後もこの減少傾向は続き、2024年には、6千人を下回ることがほぼ確実となっている。



## (2) 入学者数

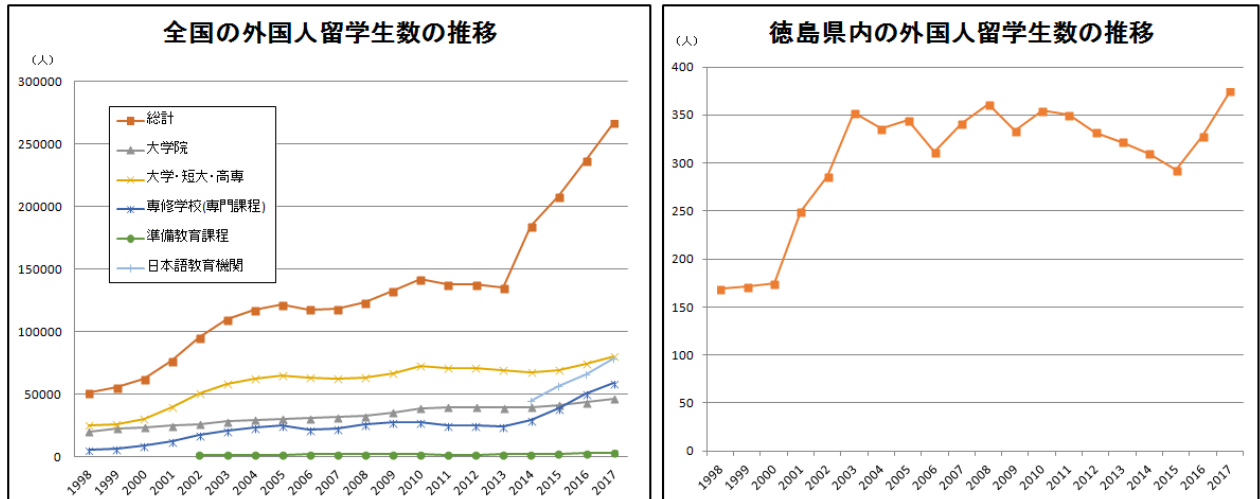
県内の高等教育機関の2018年の入学者数は3,197人で、この内県内出身者は1,540人で全入学者の48.2%である。一方、文部科学省の統計では、2017年の大学進学者の県外への流出数は2,055人であるのに対して、県外からの流入数は1,506人で、自県進学率は38.1%である。これは、中四国地区では広島県、岡山県について3番目の数字であり、自県進学率は比較的高いといえる。また、同じく文部科学省の推計によると、2017年に92.8%であった県内の大学の入学定員充足率は、大学入学定員が2017年と同じとした場合、2040年には66.9%まで減少すると試算している。

＜徳島県の大学入学者数・定員充足率の推計＞

|                   | 2017年  | 2040年  |
|-------------------|--------|--------|
| 18歳人口             | 7,159人 | 4,789人 |
| 大学進学者数(県外への流出を含む) | 3,318人 | 2,216人 |
| 大学入学者数            | 2,769人 | 1,997人 |
| 大学入学定員            | 2,983人 | 2,983人 |
| 大学入学定員充足率         | 92.8%  | 66.9%  |

### (3) 外国人留学生

独立行政法人日本学生支援機構の「外国人留学生在籍状況調査」によると、日本国内の高等教育機関（専門学校を含む）に在籍する外国人留学生数は、2017年には267,042人であり、2013年以降の4年間でほぼ倍増といった急激な増加を示している。徳島県内の高等教育機関における外国人留学生の受入数については、2003年以降ほぼ横ばいの状態であったが、2016年と2017年の2年間で82人（28.0%）増と増加傾向にある。しかし、卒業後の留学生の県内企業就業への取り組みが不足しており、県内への就業者数は少ない状況が続いている。



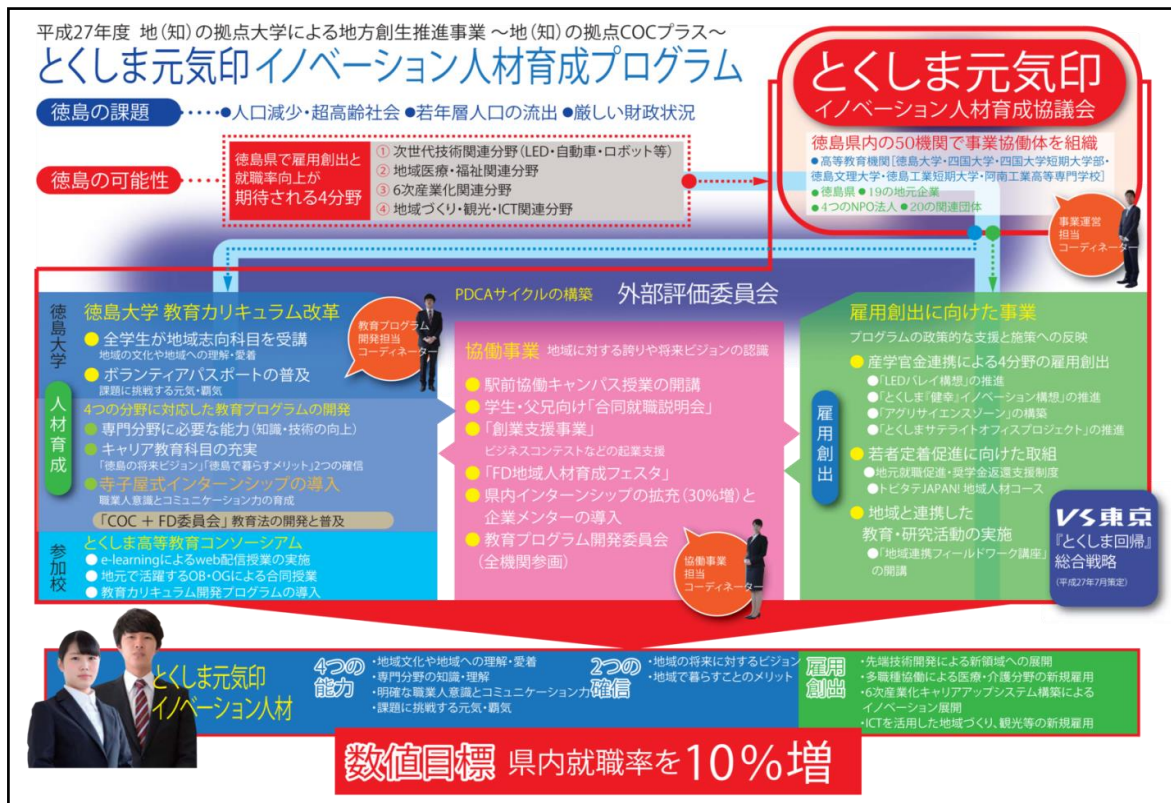
### (4) 地域や産業界との連携

県内の大学及び徳島県では、県内各地にサテライトオフィス、地域学舎及び県の新未来創造オフィス等（以下「サテライトオフィス等」という。）を数多く設置し、各地域での教育研究活動の拠点としての機能と、公開講座を始め、地域のニーズに積極的に応える取り組みを行っている。県内の大学及び県が設置するサテライトオフィス等は、全部で18か所あり、内訳は県東部地域に5か所（徳島大2、四国大2、徳島県1）、県西部地域に5か所（徳島大1、鳴門教育大1、四国大1、徳島県2）及び面積が広い県南部地域には8か所（徳島大2、鳴門教育大1、四国大1、徳島文理大2、徳島県2）にそれぞれ設置され、大学、県、市町が連携しながら地域の課題解決や活性化を図るための取り組みを行っている。また、徳島大学では大学の研究成果を社会実装することを目的とした新たな組織「産業院」を設置し、産業界との連携強化を進めている。一方、阿南高等専門学校では、高専を支援する企業等の会として平成7年9月に「ACTフェローシップ」を発足し、技術交流の促進と地域の活性化に寄与するとともに、教育研究の振興を図っている。

### (5) 地域を支える人材の育成

徳島県では現在、徳島大学が基幹校となり策定した「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」が推進されている。本プログラムでは、県内の高等教育機関、徳島県、経済団体、

企業及びNPOが参画し、徳島県の産業振興と課題解決に資する人材の育成と、地域イノベーションを通じて県内における新たな雇用創出に取り組むものであり、2015（平成27）年度に文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された。当プログラムにより、高等教育機関卒業生の県内定着率の向上を図る取組みを推進しているが、県内定着率は2013年の822人（44.5%）が、2018年には785人（40.2%）と僅かに減少傾向である。また、県内企業が求める専門人材について、2016年の職業別有効求人数と有効求職者数を見ると「専門的・技術的職業」では、求人数42,150人に対し、求職者数が17,811人と大幅に少なく、有効求人倍率が2.37と将来を担う技術者の確保が困難となっている。



(6) 人生100年時代への対応

健康寿命が世界一の長寿社会を迎え、2007年（平成19年）に日本に生まれた子供は107歳まで生きる確率が50%もあると言われている。こうした人生100年時代においては、人々は「教育・仕事・老後」という3ステージの単線型の人生ではなく、マルチステージの人生を送るようになる。こうした人生100年時代を見据え、幼児教育から小・中・高等学校教育、高等教育、さらには社会人の学び直しに至るまで、生涯を通じて切れ目なく、質の高い教育を用意し、必要な時には、いつでも有用なスキルを身につけられる学び直しの方が提供される必要がある。しかし現状、県内高等教育機関が提供している教育訓練給付制度の指定講座、職業実践力育成プログラム（BP）は、それぞれ2件という状況で、社会人、アクティブシニア等に対する学び直しの場合、県内企業のニーズに合致したプログラムが不足している。

## 2. 徳島県の高等教育機関の課題

前述の現状分析を踏まえ、徳島県の高等教育機関が直面する特に重要な課題は次のとおりである。

### ①入学者確保

高等教育機関が地域社会のニーズに応え、多様でかつ質の高い教育の場を提供していくためには、各高等教育機関が一定の規模を確保していくことが重要であるが、18歳人口の減少、県外進学による流出等により、今のままでは現状の入学生数を維持することが難しい状況である。

### ②地域や産業界との連携

県内高等教育機関や徳島県は、県内各地にサテライトオフィス等を設置し、地域のニーズに積極的に対応する取り組みを行ってきたが、高等教育機関間の共同事業やサテライトオフィス等の相互利用は行われていない。今後は、各高等教育機関が個々の資源や成果を生かしながら、相互に協力することによって、さらに地域との連携を推進していかなければならない。

また、高等教育機関は、地域の経済や産業の拠点としての役割も担っており、地域社会や産業界のニーズ等を把握し、技術やイノベーションの創出により、地域産業に貢献することが求められている。

### ③人材育成

様々な施策を実施しているにも関わらず、県内高等教育機関を卒業した学生の県内定着率は思うように伸びていない。県内企業が求める専門的・技術的人材や地域が求める課題解決能力のある人材を、今まで以上に育成していく必要がある。

### ④多様な教育の場の提供

人生100年時代を迎え、高等教育機関には、多様で質の高い学び直しの場を提供することが求められている。また、県内企業のニーズに合致した、より専門的・実践的な教育プログラムを今まで以上に構築していく必要がある。

### 3. 徳島県の高等教育機関のビジョンと目標

徳島県内の高等教育機関には、それぞれの資源や機能を最大限活用して、各々の特色化を図るとともに、幅広い分野で相互に連携及び協力して、徳島県における学術・文化の振興、地域社会や産業の発展及び人材の育成に寄与することが求められている。この使命を果たすため、県内高等教育機関は将来に向けてのビジョンと 2023 年までの 5 年間の目処とした目標を、次のとおり掲げる。

**ビジョン** 確固たる知的拠点を形成し、多様で質の高い教育を提供するとともに、産学官が連携して地域社会の発展に貢献する

#### 目標① 入学者数の維持

各高等教育機関の特色化や魅力化、教育委員会や高校との連携による高大連携の推進等による県内高校からの自県進学率の向上、県外の高校から県内高等教育機関への入学者の増加、産業界とも連携して県内就職を見据えた外国人留学生の積極的な受入れ等の様々な施策を通じて、2018 年の県内高等教育機関入学者数、約 3,200 人規模を維持する。

#### 目標② 産学官連携による地域社会の活性化

産業界の活性化は、地域社会や県内高等教育機関が抱える諸課題を解決するための、最も重要で優先順位の高いテーマのひとつである。このため、県内の高等教育機関と産業界や自治体が相互に連携し、共同研究による新たな技術や商品の開発、新たなビジネスモデルの提案及びこれらの成果に基づく新たな産業の創出や地域の活性化に積極的に取り組む。

#### 目標③ 地域を支える人材の育成

県内の高等教育機関は、引き続き、徳島県内の企業が求める専門的・技術的人材の育成に努めなければならない。このため、2018 年 4 月（40.2%）を基準として、「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」の目標である県内高等教育機関新卒者の県内就職率 10%増の目標を継続する。また、地域が求める課題解決能力のある人材を育成するため、各高等教育機関や徳島県のサテライトオフィス等を有効に活用しながら、徳島県や県内の市町村との連携による地域貢献プロジェクトに積極的に取り組む。

#### 目標④ 多様な学び直しの場の提供

人生 100 年時代の地域社会や産業界のニーズに応えるため、多様でかつ質の高い教育の場を提供する。特に、県内高等教育機関の連携・協力により、社会人、アクティブシニア向けのリカレント教育プログラム、県内企業のニーズに合致した専門的な教育プログラム等を開発し展開する。



#### 4. 中長期計画策定に向けた検討項目

これまで述べたビジョン及び目標を達成するため、今後、取組内容を具体化し、それぞれの5年程度のスケジュールと目標を定め、中長期計画としてとりまとめる必要がある。ここでは、その検討項目を示す。

##### (1) 高等教育の質の向上や効率的運用

- ① 単位互換の取り組み
- ② 共同FD・SD
- ③ 施設・設備の共同利用
- ④ 共同IRの実施
- ⑤ 学生募集活動に係る取組み
- ⑥ 大学事務の共同実施
- ⑦ 留学生の確保と支援

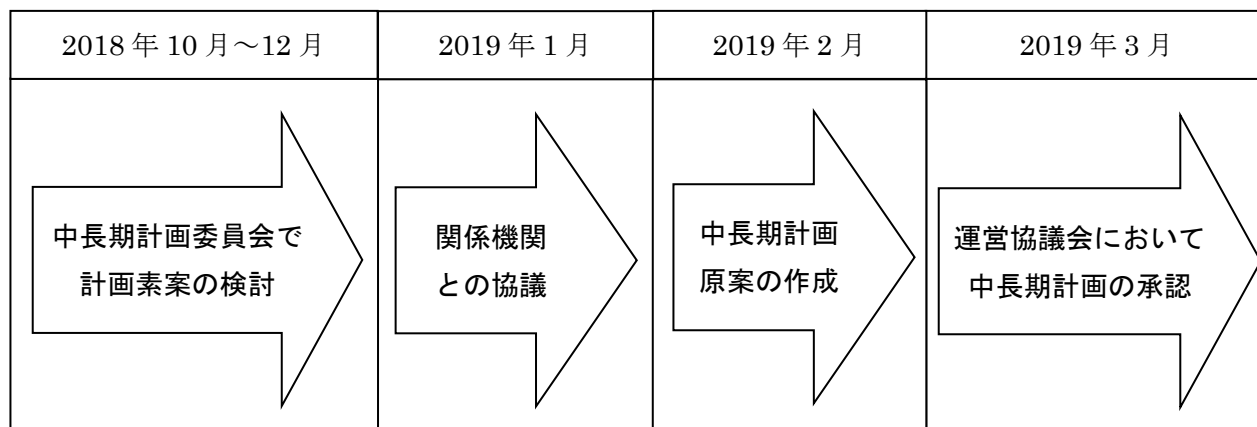
##### (2) 地域貢献活動

- ⑧ 地域課題解決のための共同研究
- ⑨ 地域の教育支援活動
- ⑩ 共同の公開講座の企画・実施
- ⑪ 社会人のキャリア形成のためのプログラム
- ⑫ 県内就職促進の取組み
- ⑬ 地域のリスクマネジメントの検討

なお、現時点での、県内高等教育機関間の連携の状況は、参考資料2「プラットフォーム参画高等教育機関による取組状況」のとおりであり、これをプラットフォームの中長期計画による取組の先行事例と位置づけ、プラットフォームとしてこれらの事業に取り組む。

## 5. 中長期計画策定までのロードマップ

前述の中長期計画策定までのロードマップは次のとおりである。



## 参考資料 1 徳島県の学術分野マップ

### (1) 徳島県の学術分野ごとの組織数

| 分野    | 組織数  |
|-------|------|
| 人文科学  | 2 組織 |
| 社会科学  | 4 組織 |
| 理工学   | 3 組織 |
| 農学    | 1 組織 |
| 医療・保健 | 6 組織 |
| 家政    | 4 組織 |
| 教育    | 3 組織 |
| 芸術    | 3 組織 |
| その他   | 1 組織 |

(2) 徳島県の学術分野マップ

【大学】

| 分野    | 学部       | 大学     | 国公私 |
|-------|----------|--------|-----|
| 人文科学  | 文学部      | 四国大学   | 私立  |
| 社会科学  | 経営情報学部   | 四国大学   | 私立  |
| 社会科学  | 総合政策学部   | 徳島文理大学 | 私立  |
| 理工学   | 理工学部     | 徳島大学   | 国立  |
| 農学    | 生物資源産業学部 | 徳島大学   | 国立  |
| 医療・保健 | 医学部      | 徳島大学   | 国立  |
| 医療・保健 | 歯学部      | 徳島大学   | 国立  |
| 医療・保健 | 薬学部      | 徳島大学   | 国立  |
| 医療・保健 | 看護学部     | 四国大学   | 私立  |
| 医療・保健 | 薬学部      | 徳島文理大学 | 私立  |
| 医療・保健 | 保健福祉学部   | 徳島文理大学 | 私立  |
| 家政    | 生活科学部    | 四国大学   | 私立  |
| 家政    | 人間生活学部   | 徳島文理大学 | 私立  |
| 教育    | 学校教育学部   | 鳴門教育大学 | 国立  |
| 芸術    | 音楽学部     | 徳島文理大学 | 私立  |
| その他   | 総合科学部    | 徳島大学   | 国立  |

【短期大学】

| 分野   | 学部              | 大学          | 国公私 |
|------|-----------------|-------------|-----|
| 人文科学 | 言語コミュニケーション学科   | 徳島文理大学短期大学部 | 私立  |
| 社会科学 | ビジネス・コミュニケーション科 | 四国大学短期大学部   | 私立  |
| 社会科学 | 商科              | 徳島文理大学短期大学部 | 私立  |
| 理工学  | 自動車工業学科         | 徳島工業短期大学    | 私立  |
| 家政   | 人間健康科           | 四国大学短期大学部   | 私立  |
| 家政   | 生活科学科           | 徳島文理大学短期大学部 | 私立  |
| 教育   | 幼児教育保育科         | 四国大学短期大学部   | 私立  |
| 教育   | 保育科             | 徳島文理大学短期大学部 | 私立  |
| 芸術   | 音楽科             | 四国大学短期大学部   | 私立  |
| 芸術   | 音楽科             | 徳島文理大学短期大学部 | 私立  |

【高等専門学校】

| 分野  | 学部      | 大学         | 国公私 |
|-----|---------|------------|-----|
| 理工学 | 創造技術工学科 | 阿南工業高等専門学校 | 国立  |

## 参考資料2 プラットフォーム参画高等教育機関による取組状況

| 項目             | 連携機関                                 | 内容   | 備考     |
|----------------|--------------------------------------|--|--------|
| 単位互換の取り組み      | 徳島大学、阿南高専、文理大学、四国大学、四国大学短期大学部、工業短期大学 | ・夏期集中講義(参加校共同授業「徳島の魅力、徳島で働く」)として、授業科目を共同で開発提供。<br>・プラットフォーム大学間共通のシラバスを作成。  | COC+事業 |
|                | 徳島大学<br>鳴門教育大学                       | ・質の高い授業科目を相互に提供することで学生の学びの幅を広げ、学修の充実に寄与し、その成果の拡充を図ることを目的に、単位互換を行う。   |        |
|                | 徳島大学<br>四国大学                         | ・相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実に図ることを目的として、単位互換を行う。  |        |
|                | 徳島大学<br>阿南工業高等専門学校                   | ・協定に基づき、相互に授業科目を履修。  |        |
|                | 四国大学<br>徳島工業短期大学                     | ・徳島工業短期大学と四国大学との包括連携に関する協定書に基づき、共同で日本語教育授業を実施。   |        |
|                | 四国大学<br>鳴門教育大学                       | ・鳴門教育大学との連携協定に基づき、鳴門教育大学大学院から教員を招聘し講義する。学生に対して鳴門教育大学大学院へ進学する際の指導・助言を得るなど両大学間の緊密な連携により、国家試験合格に向けて必要な能力が身につけられるよう大学院進学支援を行う。                   |        |
| 共同FD・SD        | 徳島大学、鳴門教育大学、阿南高専、文理大学、四国大学           | ・T-SPOD会議を開催し事業の情報共有、意見交換を実施。  |        |
|                | 四国大学<br>徳島工業短期大学                     | ・共同FD・SD活動の共同実施。   |        |
| 学生募集活動に係る取り組み  | 四国大学<br>徳島工業短期大学                     | ・大学の文化祭等で、大学案内のパンフレットを共同で配布。   |        |
| 留学生の確保と支援      | 四国大学<br>徳島工業短期大学                     | ・関西・中国地区の日本語学校在学中の留学生を対象に、キャンパス見学ツアーを実施。   |        |
|                | 四国大学<br>徳島工業短期大学                     | ・四国大学文化祭に日本の文化を体験すると題し、工業短期大学の学生が参加。   |        |
| 地域課題解決のための共同研究 | 徳島大学<br>徳島文理大学                       | ・養殖技術に関する共同研究を実施。  |        |
|                | 徳島県<br>徳島大学<br>徳島文理大学<br>四国大学        | ・大学が持つ知的、人的資源を活用し、地域の課題解決、活性化を図る。  | 委託事業   |
| 地域の教育支援活動      | 鳴門教育大学、徳島大学、阿南高専、文理大学、四国大学           | ・理数・技術(情報)領域に高い意欲と才能を有する小学5・6年生及び中学生を対象に、問いの資質能力(“探る・究める・発見する”)を重視した幅広い科学時術分野の専門研究における探究活動を取り入れた教育プログラムを実施することで、未来の科学技術者であるジュニアドクターを発掘・養成する。 |        |
|                | 徳島県<br>鳴門教育大学<br>阿南高専<br>文理大学        | ・科学技術人材の育成を目指し、「リケジョ養成講座」と「小中学生向け体験講座」を実施。   | 委託事業   |
| 共同の公開講座の企画・実施  | 徳島大学、阿南高専、文理大学、四国大学、四国大学短期大学部、工業短期大学 | ・「徳島の魅力、徳島で働く」や「FD地域人材育成フェスタ」を実施。  | COC+事業 |
| 県内就職促進の取り組み    | 徳島大学、阿南高専、文理大学、四国大学、四国大学短期大学部、工業短期大学 | ・学生+保護者向け企業ガイダンス   | COC+事業 |